

### Ⅲ わらじ村長 鎌田三之助の挑戦

#### 7 品井沼開拓発祥の地～百折不撓～

品井沼干拓地に最初に入植したのは、山形県長瀞村（現在の山形県東根市長瀞）の住民 18 名であった。大きな希望を抱いていた彼らは、品井沼の「沼」と長瀞の「瀞」の二字を合わせて「沼瀞団<sup>しゅうせいだん</sup>」と称し、開墾に取り組んだ。移住した場所は、鳴瀬川の川岸に近い東鼠子川原<sup>そうしがわら</sup>で、棟割長屋の住居は、部屋に畳がなく、藁<sup>わら</sup>を敷いた掘建て家だった。長雨が続けば長屋は湿気を帯び、洪水ともなれば水浸し、作っていた野菜も卵も生活の資にはならず、惨憺たる有様を呈していた。

この明治 42 年は、明治穴川（高城川トンネル）の開削工事が技術的にも資金的にも困難を極め、工事の続行、中止をめぐって激しく議論が対立することになった。

この厳しい現実の中での鎌田三之助と沼瀞団の関わりについて、鹿島台町史は心揺さぶる見事な解説を行っているので、原文のまま転載し、紹介する。

#### 第八章

##### 第二節 温情に元気づく沼瀞団の人々 馬鹿な狐がかいこんと泣く

明治四十二年の大洪水で六月十六日に明治穴川（高城川トンネル）は大崩落し、設計の変更、工事費の増額、それに前々から干拓に反対する立場の人々は「田にも畑にも品井沼、馬鹿な狐がかいこんと泣く」とあざけり、干拓反対の声が激しくなり、工費の増額をめぐって工事の中止と続行の渦は激しく巻いて流れた。

##### 温情に元気づく開墾移住の人々

村長鎌田三之助は「馬鹿な狐」となり、あざけりを全身に受けながら、中止と続行の両論の調整に夜を日についで奮闘していたが、その中であって最も心配していたことは、先駆者である沼瀞団の人々と、在来の鹿島台村民との精神的調和を図ることであった。

「鹿島台村民よ、野菜は沼瀞団の人々から買ってくれ」と懇願し、「卵は沼瀞団の卵を食べてくれ」と説きまわっている三之助の温かい叫びが、沼瀞団の人々を元気づけたのである。干拓地に黄金の穂波がゆれわたるのも遠くはない。明日の鹿島台村は今日の中にある。希望の光は、あすから鹿島台にさしこむのだ。その時に最も大切なのは、在来の村民が沼瀞団の人々を温かく迎え、沼瀞団の人々がたやすく在来の村民の中に溶け込むことこそ、あすの鹿島台の基本と考えていたのである。

開墾地は、今後 10 年間は無肥料でも豊作になる。しかし村の心の豊作は、人々の心の和を肥料としなければならない。村政の旗印「共同一致」も辞書に記されている意味だけでは、ただそれだけに過ぎない。心と心を解り合い、互いの心を尊びあって村の建設に向かってこそ、本当の「共同一致」となるのである。

苦難に耐え、温情を心の鞭として開墾の一畝を下す日を待っていた沼瀞団は、条件の最も良い鎌巻と内ノ浦、すなわち開墾計画第一区に根をおろした。（鹿島台町史）

碑文には、次のように刻まれている。

(表面)

百折不撓 宮城県知事 高橋進太郎

### 品井沼開拓発祥の地

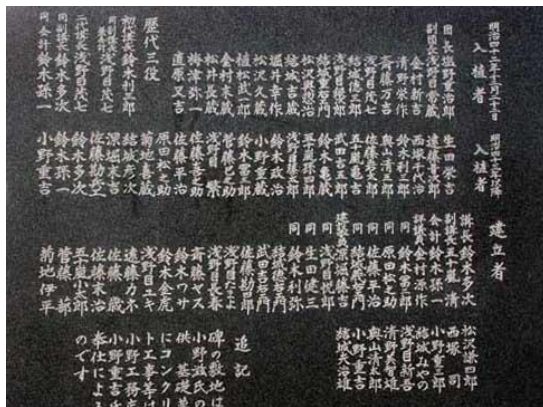
この鎌巻の地に今は近代的な家屋が立ち並び住民ひとしく喜々として楽しく生活しているが開拓以前の姿は大谷地の地名のとおり一帯は言語に絶する荒野で茅蓬などが密生していた 品井沼干拓事業の父といわれた鎌田三之助翁の卓越した指導に基づきこの地に新天地開拓の希望を掲げ山形県長瀬村から塩野重治郎氏を団長に十八名が山野を徒歩で辿り着きこの碑より北方四百米先の鳴瀬川沿岸の小高き丘東鼠子河原六十四番地に旧明治四十二年十二月二十二日棟割長屋を建て沼濶団と称し蹶然開墾の第一鍬を切り込んだのであるこのことは鹿島台町開墾事業の発祥の地として永久に記念しなければならない 以後ここ鎌巻を草分けとして内の浦志田谷地美賀野間と続々開拓の道を開き当町現在の経済基盤を築いたのである石をも貫く不撓不屈の斗志で度重なる大水害などにもめげず波乱曲折を乗りこえた先駆者の血の滲む努力があったればこそ今日の美田と安住の地を得ることができたのである我々は先人の遺業を偲び尊敬と感謝の念を深くするものである

当時の先駆者は殆ど物故されたが幸いにも生存されている方々の記録を整理しその一端をこの碑に刻み明治百年を期し開拓六十周年を記念してこの遺業を永久に子孫に伝えかつより輝かしい未来を築くため力強く前進することを誓いこの碑を建立するものである

昭和四十三年十二月二十三日



(表面)



(裏面)

---

(裏面)

明治四十二年十二月二十二日入植者	明治四十三年以降入植者
団長 塩野重治郎	生田栄吉
副団長 浅野日常蔵	遠藤音次郎
金村新吉	西塚千代治
清野栄作	鈴木利三郎
斎藤万吉	奥山清五郎
浅野目茂七	佐藤岩太郎
結城徳三郎	五十嵐亀吉
浅野目銀次郎	武田吉五郎
結城重右エ門	鈴木亀蔵
松沢與惣治	五十嵐孫四郎
結城吉蔵	浅野目○太郎(○は確認未了)
堀井幸作	鈴木政治
松沢久蔵	小野重蔵
植松武一郎	鈴木富五郎
金村末蔵	菅藤巳之助
松井長蔵	浅野目 繁
梅津弥一	佐藤喜之助
直原又吉	佐藤平治
	原田松之助
歴代三役	菊地喜蔵
初代講長 鈴木利三郎	結城彦次
同副講長	深堀末吉
兼会計 浅野目茂七	佐藤勘兵(本字:兵の下に工)
二代講長 浅野目茂七	鈴木多次
同副講長 鈴木多次	鈴木孫一
同会計 鈴木孫一	小野重吉

追記

碑の敷地は小野滋氏の提供 基礎並びにコンクリート工事等は小野工務店主小野重吉氏の奉仕によるものです

(注) 設立者名については、ここでは掲載を省略している。